◆企 画 名　自分をもっと好きになる！パーソナルカラー＆骨格診断講座
日　　程　2025年12月8日（月）16：20～18：20
場　　所　千里山キャンパス総合図書館１階ワークショップエリア
参加者数　24名（ピア・サポータ７名、研修生２名、一般学生15名）

目　　的

関大生が自分に似合う雰囲気や形を見つけて自身の魅力をより引き出せるようになるとともに、他者に好印象を与える「似合う服選び」ができるようになること。さらに、本講座を通して自分の似合う色やスタイルを知ることで着たい服の幅を広げ、ファッションをより楽しめるようになることを目的とした。

内　　容

教室の正面に講師の方に頂いたスライドを映し講座を開始した。
冒頭で第一印象の重要性を説明したのちに、本講座のメインであるパーソナルカラーと骨格の説明が行われた。その後、デモンストレーションが行われ、ペアを組みセルフ診断を実施した。ペアはパーソナルカラー診断と骨格診断の希望者が組み合わされた。
パーソナルカラー診断とは、自身の身体的色味の特徴から「調和する似合う色」を診断することであり、診断結果は４タイプに分けられる。参加者はパーソナルカラーセルフ診断チェックを参考にしながらペアの人と協力し、ドレープと鏡を使用して診断を行った。
骨格診断とは、身体の質感やラインから「調和する似合うシルエット」を診断することであり、診断結果は３タイプに分かれる。参加者はペアの人と協力し、骨格診断セルフチェックシートを参考にしながら診断を行った。
診断後、講師の方によるファッションについてのワンポイントアドバイスと質疑応答ののち、正面のスライドにKUSPによるアンケートを提示し、本講座は終了した。

効　　果

本講座の目的は、参加者自身のパーソナルカラーと骨格タイプを知り、それによって自身の魅力をより引き出す知識を持ってもらうことであった。
参加者へのアンケートより、複数の参加者から「簡易的であるものの、自身のパーソナルカラーと骨格タイプを知ることができた」という感想が見られた。5段階で本講座の評価を尋ねたところ、平均4.4（中央値5）という結果となり、高い満足度を得られた。
したがって、「関大生が自分に似合う雰囲気や形を見つけ、自分の魅力をより引き出せるようになる」という本講座の目的は概ね達成することができたと考えられる。
また、本講座の募集を開始して１週間以内で定員に達したことから、本学生のニーズに答えることができたと考えられる。

改 善 点

ペアの組み方が分からない学生がいた。また、事後アンケートでは同じ診断同士で組む方が混乱しなかったとの声があった。ペアを組む関係で座席表が決まっている中、欠席者が多くなってしまい、ペアと座席変更の対応に迫られた。改善策として、同じ診断同士でペアを組んだ座席表を用意し、欠席者が出てもスムーズに移動できる仕組みを事前に作っておくことを提案する。また、欠席者に対しても事前に何らかの忠告をするべきだった。
写真撮影に関して参加者の許可取りが難しい部分があった。写真の掲載はさせていただくが、ボカシを入れることをあらかじめ参加者に伝えておくことを提案する。
パーソナルカラー診断に使用した置き鏡が小さく、診断が十分にできない箇所があったため、来年実施する場合はより大きな鏡を購入すべきである。
骨格診断においては、学生同士で診断を行うことが難しい場面が見受けられた。そのため、セルフ診断を実施する際には、学生にも理解しやすい判断基準や具体的なポイントについて、事前に講師から説明を受ける必要があった。
「お気に入りの服」や「似合う服」を着用して参加するよう案内していたが、参加者の認識と講師が想定していた内容に差異が見られた。そのため、事前のインフォメーション文に「自分が着こなしたい服を着用して参加してください。講師よりコーディネートに関するワンポイントアドバイスを行います。」など、具体的な目的や内容が伝わる

表現を明記する必要があった。
　また、おしゃれ上級者は既に自分に似合う服に関する知識を持っている場合が多く、今回のような基礎的内容の講座とは目的が合わないことが想定される。今後は、初心者向け講座に加えて、見た目や姿勢、所作などにも重点を置いた上級者向け講座を実施し、対象者を分けることも運営上の改善策として検討していきたい。

感　　想

　セルフ診断をペアで協力して行うことで学生間の親睦を深めることができた。講師の方にセルフ診断中にアドバイスを貰うことや、質疑応答の時間を十分に設けることでプロの有益な情報を積極的に吸収しようという学生の姿勢が見られた。
　今回、KUSP は新しく入ったメンバーが多く、加入歴の長いメンバーから説明を受ける部分が多かった。経験の多いメンバーからのサポートや新メンバーが自分の与えられた役割に積極的に取り組むことで、円滑にミーティングや資料作成を進めることができた。